



甲府駅南口に鎮座する武田信玄公之像
武田信虎公が躰躑が崎に館を構えた1519(永正16)年の開府から今年で500年、2021(令和3)年には、武田信玄公生誕500年を控え、甲府市は大きな歴史的節目が続く。信玄公は甲斐本国に加え信濃、駿河、西上野および遠江、三河、美濃、飛騨などの一部を領有し次代の勝頼期にかけて領国をさらに拡大する基盤を築いた山梨梨が誇る戦国武将だ。

川田館跡
武田氏の館が躰躑が崎に移る前の館で、信虎公が父から受け継いだ。信虎は川田を拠点として叔父との主導権争いを制し、甲斐を統一した。

要害山
躰躑が崎に館を移した翌年に信虎公が築いた城。駿河勢が甲府盆地に攻め入った際、妊娠中だった信虎公の妻大井婦人が避難し、信玄公を出産したとされる。

飯田河原古戦場
1521年10月16日、武田勢と駿河勢の合戦があった場所。武田勢が勝利し、さらに同11月23日の上条河原古戦でも勝利。駿河勢を退けた。

湯村山城跡
躰躑が崎の館と甲府を守るための城。湯村地域は信濃側から甲府に入る玄関口で、街道の監視や合戦での前線基地として使われるために築城された。

八幡神社
源氏一族が崇拝していた神社。武田氏が石和にあった八幡宮を躰躑が崎に移り住むことを期に、館の西に移転させた。現在は甲府市宮前町に移っている。

萬年山 大泉寺
信虎公の菩提寺で、県内の曹洞宗をとりまとめている寺院の一つでもある。国の重要文化財に指定されている信虎公の肖像画を所蔵している。

2021年は、信玄公生誕500年

甲斐武田氏の歴史を今に伝える『ゆかりの地』

甲府商工会議所こうふ開府500年記念事業紹介



ごあいさつ

甲府商工会議所 会頭
金丸 康信

節目の年盛り上げたい

平成から令和へ改元された本年、武田信玄公の父、信虎公が躰躑が崎の地(現在の武田神社)へ館を構えた1519年の開府から、500年という記念すべき節目を迎えました。甲府商工会議所は、「こうふ開府500年・信玄公生誕500年事業検討委員会」を設立し、開府500年をどのように盛り上げていこうかと検討を重ねました。

甲斐府中の礎は武田信虎公によって築かれ、甲斐武田氏の全盛を極めた嫡子信玄公の事績は、その地盤があればこそものと推察されます。当所は、その甲斐国を統一した信虎公にスポットをあてた三つの事業を実施することといたしました。

まず一つ目に、信虎公のブロンズ像をJR甲府駅北口よっちゃばれ広場へ建立し、昨年暮れに除幕式を行いました。二つ目は信虎公の功績などを紹介するためテレビ番組を制作・放送し、ラジオはAM・FMそれぞれ数回シリーズの番組を放送しました。三つ目は、信虎公の命日とされる3月5日、報恩供養を萬年山大泉寺にて執り行いました。

今後山梨県は、来年度中の中部横断自動車道の山梨・静岡間全線開通、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催、翌年21年の信玄公生誕500年、27年のリニア中央新幹線開業などによって地域活性化が期待されています。

一方で少子高齢化・人口減少に伴う「人手不足」の深刻化は現実視されており、さらには、「働き方改革」や「消費税率引上げと軽減税率」への対応など企業経営を取り巻く環境が大きく変わろうとしています。

当所では、これらの課題へ積極的に対応すべく、企業や行政、さまざまな機関と有機的・効果的連携を深め、商工会議所の基本理念であります「地域経済の活性化」と「中小企業の活力強化」に取り組んでまいります。

Table with 2 columns: Year and Event. Title: 武田信虎略年表. Includes dates from 1498 to 1574.



武田信虎公之像

「地方の歴史は地方のブランドそのものです。今回建立した武田信虎公之像が観光の名所になり、甲府を訪れる人の増加につながることを願っています」と語った。一方、信虎の命日である3月5日には、甲斐国を統一し、甲府を開いた恩に報いるためという名目で、菩提寺である大泉寺で報恩供養が執り行われた。息子の信玄に甲斐から追放され、最期まで甲斐に戻ることが許されなかった信虎。開府から500年が経ち、再び甲府にその姿がよみがえった。

新たな甲府は館を中心に南北街路と、それらを結ぶ東西の道路で町が区画され、多くの武家や寺社、職商人の屋敷が建設されました。複数の街路が規則的に整備された戦国時代の都市は、東日本では源頼朝が開いた武家の都、鎌倉以外に例はなく、甲斐源氏の



武田氏館(躰躑が崎の館)跡
今か500年前、永正16(1519)年に信虎が川田から移り住んだ場所で、信虎、信玄、勝頼の甲斐武田氏3代が居を構えた躰躑が崎の館があった場所。現在は武田神社となっている。

肖像画基に銅像制作
手に軍配、富士眺める



像の目録を樋口雄一市長(右)に手渡す武田信彦副会長
=JR甲府駅北口よっちゃばれ広場=

JR甲府駅北口よっちゃばれ広場の武田信虎公之像は、甲府商工会議所が甲府開府500年を記念して建立し、甲府市に寄贈した。山梨県の玄関口に立ち、県都・甲府の父とも言える信虎の遺徳を今に伝えている。像は銅製で、高さは約2.1m、台座の高さは約1.85m。大泉寺が所蔵し、息子の信廉が描いた信虎の肖像画「絹本着色武田信虎像」を基に制作された。

昨年、12月に行った像の除幕式には、甲府商工会議所や甲府市、山梨県の関係者ら約200人が参加。同所の武田信彦副会長らが幕を引くと像が姿を現し、来場者からは拍手が上がった。像は甲府市に寄贈され、武田副会長から樋口雄一市長に目録が手渡された。



甲府・大泉寺が所蔵する「絹本着色武田信虎像」

武田副会長はあいさつで「地方の歴史は地方のブランドそのものです。今回建立した武田信虎公之像が観光の名所になり、甲府を訪れる人の増加につながることを願っています」と語った。一方、信虎の命日である3月5日には、甲斐国を統一し、甲府を開いた恩に報いるためという名目で、菩提寺である大泉寺で報恩供養が執り行われた。息子の信玄に甲斐から追放され、最期まで甲斐に戻ることが許されなかった信虎。開府から500年が経ち、再び甲府にその姿がよみがえった。



改めて知る信虎の功績
県都・甲府の礎を築く

甲府開府500年の今年、武田信玄の父で、甲府の礎を築いた信虎が注目されている。甲府商工会議所は昨年12月、JR甲府駅北口に武田信虎公之像を建立。命日の3月5日には、菩提寺・大泉寺(甲府市)で法要も行われた。信玄に比べ、功績、人柄などが知られていない信虎。節目の年を迎え、改めて信虎について知る機会が増えそう。

東日本有数の戦国都市

甲府市教育委員会 佐々木 満氏



今から500年前の永正16(1519)年、甲斐守護の棟梁が治める国の首都と呼ぶにふさわしい計画的な町たつと考えられます。

信虎は、信玄と家臣らによって甲斐国を追われ、やがて京都に辿り着き、足利将軍家に仕える身分となりました。そして、將軍家の没落後、生まれ育った甲斐を自指しますが、天正2(1574)年に信濃国高遠で亡くなり、甲府の大泉寺で葬儀が執り行われました。菩提寺である大泉寺には信虎の供養塔やゆかりの品々が遺されています。